

基本プラン

～本部隊 地震訓練～

A : Awareness (気付き)

ある日突然巨大地震が発生し、“けが人が発生した”“エレベーターが停止し、閉じ込め者が発生した”などの状況を予備知識のない参加者に与え、自身がどう対応すべきかを考えてもらいます。これにより、災害発生時の対応ができないことに気付いてもらい、「なんとかしなければ」「技術を身に付けなければ」という意識付けを行います。



意識付けができたうえで、次のステップE (Education(教育))に繋がります。

E : Education (教育)

座学形式により、災害の特徴をはじめ、災害発生時に自衛消防活動上中核となる統括管理者・自衛消防隊長・本部隊班長等が対応しなければならないことについて、基礎学習します。

・地震発生直後の対応
・被害状況の確認等
・被害状況確認後の対応
・避難誘導活動
・消火活動
・救出救護活動
・水損防止活動
・災害情報の収集と分析等

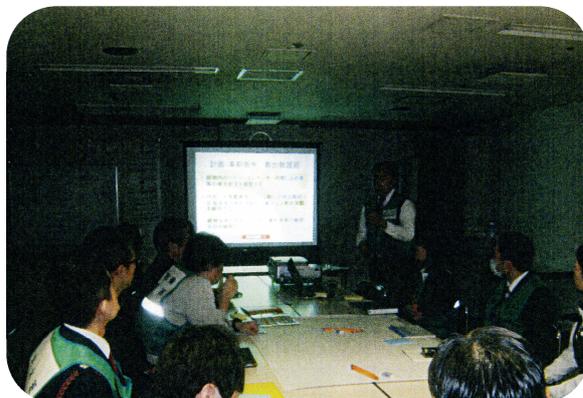


T : Training (訓練)

E (Education(教育))で得た知識を基に、災害発生時の対応行動に関する問題を 5 問程度出題し、10 名程度で構成されたグループにて協議(テーブルトップトレーニング)します。これにより、災害発生時に必要となる対応行動の要点を再確認できるとともに、グループ内で認識を共有することができます。

揺れが収まった直後の本部隊の対応

あなたは1階の防災センターに勤務しています。
揺れは、約1分くらいで収まりました。
防災センター(自衛消防本部隊)が優先的にを行うことを付箋に書いてください。



E : Exercise (演習)

訓練の締めくくりとして、モックディザスター訓練(図上型疑似災害訓練)により、T (Training(訓練))で構成したグループに対して、“けが人発生”“火災発生”“エレベータ閉じ込め”“スプリンクラーからの水損”“建物の倒壊危険”など、建物の実態に合わせた災害状況を次々と付与し、瞬時に判断し行動してもらいます。



モックディザスター訓練終了後、検証・講評により、足りなかった点などの洗い出しを行い、次なるA E T Eサイクルに繋げ、更なるレベルアップを図っていきます。